

平成28年度 子供ゆめ基金体験の風リレーションシップ事業 おおすみくん家 スペース サイエンス スクール

- 1 趣 旨 内之浦宇宙空間観測所をはじめ、数多くの天体・宇宙科学関連の施設が立地する鹿児島県の特性を活かし、天体・科学に関する種々の体験を通じて、天体や宇宙、ひいては科学への興味・関心を高め、知的好奇心あふれる青少年の育成に寄与することを目的として実施する。
- 2 期 日 平成28年10月9日（土）～10日（日） 1泊2日
- 3 対 象 者 小学5年生～中学3年生
- 4 募集定員 40人
- 5 参 加 者 33人（応募数：38人） ※5人は体調不良等のため不参加
- 6 指 導 者 輝北天球館 館長 竹井 高志 氏
国立大隅青少年自然の家職員
ボランティア3人

7 日程と主な活動

10月9日（土）	10月10日（日）
10:30 受 付	6:00 起 床
11:00 出会いのつどい・オリエンテーション	7:00 朝のつどい
11:30 バス移動	7:30 朝食づくり
12:30 輝北うわば公園着・昼食	7:50 朝食（身近な宇宙食）
13:30 学習「宇宙・太陽系についての話」	9:00 工作「望遠鏡を作ってみよう」
15:00 施設見学「天体望遠鏡にふれてみよう」	11:30 あとかたづけ
16:30 夕食作り（野外炊飯）	12:00 昼 食
18:00 タ 食	13:00 ふりかえり・まとめ
19:30 学習「天体望遠鏡を動かしてみよう」	13:50 別れのつどい
20:45 バス移動	14:00 解 散
21:45 自然の家着・入浴	
22:15 就寝準備	
22:45 消 灯	

8 事業運営

本事業は、宇宙・天体を切り口に知的好奇心を高めることをねらいとし、「日本一の星空」と認定された輝北天球館を会場として、大きな天体望遠鏡を操作し天体観測を行うと同時に、テント泊といった自然体験活動を織り交ぜ、自然への畏敬の念を含めた学習の深まりをねらいとした。



9 事業の実際

- (1) 輝北天球館では、竹井高志館長の指導で講義から実際の館内見学まで一貫して実施し、より深い学びが得られるよう配慮した。
- (2) 野外炊飯はレストハウスを借用し、雨をしのぎつつ安全に調理ができるよう留意した。
- (3) 雨天のため、実際に天体を観測することはできなかったが、コンピュータを使って反射式望遠鏡（口径 65 センチ）を操作する体験を行った。
- (4) 雨および気温の低下に伴い、参加者の安全・健康を確保するため、急遽自然の家に戻って宿泊することとした。夜遅くの到着となったが、入浴で体を温められるよう、ボイラー稼働時間を延長し、風邪をひかないよう配慮した。
- (5) 朝食には宇宙航空研究開発機構（JAXA）が「宇宙日本食」として認証している食品もとに、スーパー等で購入可能なフリーズドライ食品や缶詰を取り入れた。参加者は宇宙飛行士が食べている食糧が、意外に身近に流通していることに驚くとともに、食べてみた感想などについて話し合った。
- (6) 望遠鏡の製作は、自然の家職員の指導で、厚紙とレンズ 2 枚を使って、筒の伸縮でピント調整が可能なものを作った。刃物の取り扱いについて細心の注意を払い、怪我なく望遠鏡を作り上げることができた。



10 参加者の感想

- これまで全く人と関わるのが無理だったけど、協力できてうれしかった。
- 輝北天球館が楽しくて、宇宙について物知りになれた。
- 土星とかが見られなかったのは残念だったけど、望遠鏡を手作りできて、使ってみたいと思った。

11 成 果)

- これまでの事業は科学教育を主眼に置いていたため、グループ内の異年齢交流が生まれにくかったが、今回は野外炊飯を取り入れたことで、参加者同士の交流が生まれ、互いに協力し合う姿が随所に見られた。
- 今回は輝北天球館を主な会場として実施した。あいにくの天候でフィールドの魅力を生かし切れなかったが、天体観測と自然体験活動を同時に行える環境が適切に整備されている場所であることが確認できた。

